



Center for Statistics and Information
Rikkyo University

■ 2024年度

活動報告書

■ CSI Activity Report

立教大学 社会情報教育研究センター

2024年度 活動報告書

April 2024 - March 2025

CSI Activity Report



目次 Contents

1	2024年度の主な事業活動.....	3
2	各部会の事業計画および事業報告.....	6
1)	政府統計部会.....	6
2)	社会調査部会.....	10
3)	統計教育部会.....	14
3	資格支援事業.....	18
1)	社会調査士.....	18
2)	統計検定.....	20
4	教育支援事業.....	21
1)	正課科目の開発・提供.....	21
2)	各種コンテンツの開発および改修.....	23
5	研究支援事業.....	24
1)	調査研究コンサルティング.....	24
2)	対外連携活動.....	25
6	出版物.....	26
7	組織図および構成メンバー.....	27

1 2024年度の主な事業活動

2024年

4月

- 2日 社会調査士資格申請書類発送
- 24日 調査技法に関するコンサルティング：社会デザイン研究科院生（渡辺助教）

5月

- 8日 社会調査士実習科目概要報告書・成果物・履修要項発送
- 9日 統計検定ガイダンス（統計教育部会）
- 15日 第1回 CSI センター運営会議
- 15日 第1回 CSI センター連絡会議

6月

- 3日 社会調査士（キャンディデイト）資格・指定科目証明書申請受付（～6月17日）
- 12日 第1回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの解析①～クロス集計と相関分析～」(講師：御手洗助教)
- 19日 第2回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの解析②～回帰分析～」(講師：池田助教)
- 29日 統計活用セミナー「Google Colaboratory を用いた e-Stat API の使い方」(講師：小野原助教)

7月

- 4日 社会調査データアーカイブ RUDA 調査データ公開（調査番号 0086、0087）(社会調査部会)
- 6日 第15回統計研究会「福島県田村市事業所に関する分析——経済センサスと事業所母集団データベースの比較」
(講師：櫻本准教授、経済学研究博士後期課程 則竹 悟宇氏、環太平洋大学経営学部現代経営学科講師 倉田知秋氏)
- 10日 第2回 CSI センター運営会議
- 10日 第2回 CSI センター連絡会議
- 16日 ニュースレター第13号発行
- 17日 社会調査データアーカイブ RUDA 調査データ公開（調査番号 0088）(社会調査部会)
- 29日 高大連携プログラム 立教女学院高等学校にて「データの利活用」に関する講義（講師：山口教授・安東助教）

8月

- 7日 統計教育セミナー「Rによるデータ分析入門」(講師:渡辺助教)
- 7日 コンサルティング対応(社会デザイン研究科院生)(池田助教)
- 29日 コンサルティング対応(全カリ兼任講師)(小野原助教)

9月

- 4日 コンサルティング対応(社会デザイン研究科院生)(渡辺助教)
- 18日 政府統計部会セミナー「経済系データを用いたExcel入門」(講師:香川助教)
- 20日 コンサルティング対応(全カリ兼任講師)(小野原助教)
- 25日 立教大学社会調査データアーカイブ(RUDA)リニューアル(社会調査部会)
- 30日 社会調査士(キャンディデイト)および9月卒業生 指定科目証明書申請受付(～10月14日)

10月

- 2日 第3回CSIセンター運営会議

11月

- 6日 第4回CSIセンター運営会議
- 6日 コンサルティング対応(ビジネスデザイン研究科大学院生)(渡辺助教)
- 7日 コンサルティング対応(経済学部教員)(池田助教)
- 7日 社会調査データアーカイブRUDA 調査データ公開(調査番号0089)(社会調査部会)
- 13日 コンサルティング対応(グローバル教育センター教員)(渡辺助教)
- 20日 第3回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの使い方・探し方 データアーカイブ活用法」(講師:御手洗助教)
- 28日 統計教育部会公開講演会「世論調査の未来——歴史と課題」(講師:日本世論調査協会会長 鈴木 督久氏)

12月

- 4日 第5回CSIセンター運営会議
- 4日 第3回CSIセンター連絡会議
- 11日 コンサルティング対応(外国語教育研究センター教員)(渡辺助教)
- 11日 コンサルティング対応(コミュニティ福祉研究科院生)(池田助教)
- 18日 コンサルティング対応(経済学部教員)(池田助教)
- 20日 ニュースレター14号発行

2025 年

1 月

- 11 日 第 14 回社会調査フォーラム「DID (Difference in Difference) の基本的な考え方と実践」(講師:成蹊大学経済学部准教授 内藤 朋枝氏)

2 月

- 28 日 研究紀要『社会と統計』第 11 号発行
28 日 『統計調査士試験 得点源問題集』改訂版発行 (政府統計部会)

3 月

- 3 日 社会調査士資格 指定科目証明書申請受付 (~3 月 17 日)
12 日 第 6 回 CSI センター運営会議
12 日 第 4 回 CSI センター連絡会議
18 日 社会調査士資格 指定科目証明書発行日
19 日 社会調査士資格 申請書類提出日 (~3 月 27 日)

2 各部会の事業計画および事業報告

1) 政府統計部会

2024 年度事業計画

(1) 統計教育コンテンツの作成・充実と利用の促進

2019 年に施行された改正統計法に合わせ、統計検定統計調査士対策本に位置付けられる「日本の公的統計・統計調査」、「統計調査士試験 得点源問題集」、「公的統計の二次的利用の制度に関する学習コンテンツ」を適時改訂し、整備する。

(2) 統計教育コンテンツの作成・充実と利用の促進

2022 年から 2023 年にかけて①～⑤を 3 つの授業の半オンデマンドコンテンツとして整理した。2024 年度半期はすでに作成したコンテンツの改修、メンテナンスを行う。

- ①公的統計学習コンテンツ Official Statistics Contents for Multi-user (すたまる)
- ②公的統計総合学習コンテンツ Official Statistics Navigator (すたなび)
- ③将来人口推計コンテンツ Future Population Projection Contents (ポコ)
- ④経済波及効果分析コンテンツ Repercussion Effect Analysis Contents (リコ)
- ⑤SPSS を利用したマイクロ統計分析コンテンツ

(3) 地域における統計分析と紹介

2024 年度の受託予定はない。随時受託調査は受け付けている。これまでの受託結果の成果を論文としてまとめるといった方向性を考えている。

(4) CSI 統計研究会・懇話会、講習会・講演会の開催

調査統計および加工統計の作成機関の担当者を招き、統計研究会を開催する。経済統計研究会の運用の依頼を受けて不定期で実施している。また、統計利用とも関わる講習会・講演会を開催する。2019 年度に公的統計の二次的利用制度及び統計 GIS の利用が拡充されたことを受けて、これらの利用促進に重点を置く。

(5) 統計活用セミナー、統計検定受験の促進

データサイエンスの時代を迎えて多様なセミナーが求められるようになっている。部会メンバーのできることを整理し、時代に合ったセミナーを企画し、提供していく。またセミナーをオンデマンド化して、長期間利用できるようにする。

統計教育部会と連携し、学習意欲向上のため統計検定の受験への事業協力を行う。学部 1 年次に 3 級、2 年次以上で 2 級・統計調査士を勧める。また、本学学生の統計調査士試験の合格率を高めるため、部会コンテンツを使用して学生のための支援活動を実施する。本年度も、統計調査士対策セミナーを外部にも公開する。セミナーの一部をオンデマンド化する。

(6) 公的統計の二次利用制度の活用推進

統計法が改正され、データの利活用が一層促進されるようになった。いくつかの機関にサテライト機関が設けられている。これまで実施してきた取り組みとして、和歌山県のデータ利活用センター、統計作成(オープンデータも含む)実務者へのヒヤリングがある。これらの活動については継続して随時実施する。本年度も引き続き、統計法改正にあわせて推進される公的統計の二次的利用制度(27条・33条申請、匿名データ利用、オーダーメイド集計)に関する紹介に重点を置く。実際に利用を試みるとともに、利用体験を収集し紹介する。部会コンテンツを利用した二次的分析の講習会を開催するほか、統計法に基づく制度の利活用が広がっており、俯瞰するための情報収集も継続しておこなう。

2024年度事業報告

(1) セミナー開催

◆CSI 統計活用セミナー

CSI 統計活用セミナーの目的は、公的統計の利活用について学習することである。24年度は以下のセミナーを開催した。

講義内容：生成系 AI と Google Colaboratory を用いた e-Stat API の使い方

開催日時：6月27日(木) 3限(13:25～15:05)

場 所：池袋キャンパス 8号館 8501教室

講 師：小野原 彩香(社会情報教育研究センター助教、政府統計部会)

参加人数：9名(学部生・大学院生3名、教職員6名)

講義内容：経済系データを用いた Excel 入門

Part 1：Excel の基本を学ぶ Part 2：企業の財務比率を比較する

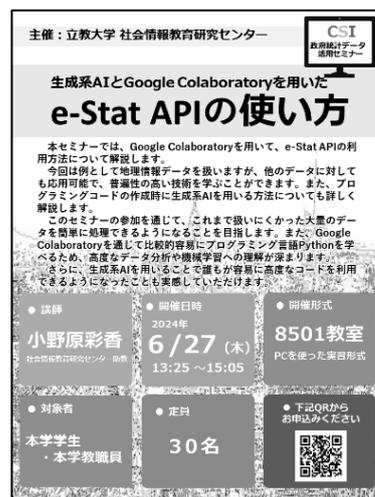
開催日時：9月18日(水) 10時50分～15時00分

(Part 1：10時50分～12時20分 Part 2：13時30分～15時00分)

場 所：8501教室

講 師：香川 涼亮(社会情報教育研究センター助教、政府統計部会)

参加人数：10名(学部生8名、教職員2名)



◆統計調査士対策セミナー

統計検定統計調査士試験の対策セミナーとなる本セミナーは、2024年度は CanvasLMS 上のオンラインコンテンツとして公開した。このセミナーは、2024年3月に第3版が発行された最新版のオリジナルテキスト『日本の公的統計・統計調査』を使用した実践的なセミナーであり、CanvasLMSにて動画の配信を行った。



(2) 調査・分析の受託事業

今年度は調査研究の受託がなかった。九州国際大学の小野寺剛教授と福岡県水巻町から受託の相談をいただいたため、12月8-10日で現地にこれまで受託を率いてこられた菊地進名誉教授と出張した。水巻町商工会からDX支援の取り組みを教えていただいた。5か年計画の3年目で、動画作成やAIを使って広告媒体を作成する支援をされておられた。北九州地域はベンチャーの宝庫として知られ、このような先進的支援施策は大変盛況で、手ごたえも感じられた。水巻町訪問し、受託のできることをいくつか成果物と共に説明した。

(3) CSI 統計研究会の開催について

経済統計研究会との共催で統計研究会を年1回開催した。第15回は人数が少なかったが、事業受託に必要な情報がいくつか分かったことが収穫だった。経済センサスと事業所母集団データベースとの産業分類ごとの相違を報告した。農業分野のデータは産直の6次産業化で飲食を提供しているところが農業に分類され、後に事業所母集団で飲食サービス分野に分類され直されていると推測された。教育分野では自治体での報告義務の範囲を誤って認識していて、後に訂正したことで結果に相違が生じている可能性が高いという議論になった。

〈第15回統計研究会〉

テーマ：「福島県田村市事業所に関する分析——経済センサスと事業所母集団データベースの比較」

開催日時：2024年7月6日（土）15:00～17:00

講師：櫻本 健（経済学部准教授）、則竹 悟宇（経済学研究科博士課程後期課程）

倉田 知秋氏（環太平洋大学経営学部現代経営学科 講師）

場所：立教大学 池袋キャンパス 12号館2階会議室（オンライン同時開催）

共催：経済統計研究会

参加人数：4人

(4) 既存の統計教育コンテンツを活用したオンデマンド授業およびセミナーの再編・整備

加えて、政府統計部会では、既存の統計教育コンテンツを活用したオンデマンド授業およびセミナーの再編・整備を推進した。

授業面では、これまでに作成された①公的統計学習コンテンツ Official Statistics Contents for Multi-user（すたまる）、②公的統計総合学習コンテンツ Official Statistics Navigator（すたなび）、③将来人口推計コンテンツ Future Population Projection Contents（ポコ）、④経済波及効果分析コンテンツ Repercussion Effect Analysis Contents（リコ）、⑤SPSSを利用したマイクロ統計分析コンテンツ、の5つの教材を活用し、「統計情報で社会・経済を診断する」科目をオンデマンドと対面を組み合わせたハイブリッド授業（全15回中7回オンデマンド、8回対面）として再構成した。担当教員の任期終了に伴い、動画教材にはAI音声を導入し、持続可能な教材設計も行った。受講者からは「統計に苦手意識があったが、授業や課題を通じて面白さを実感できた」といった前向きな意見が複数寄せられた。

また、統計検定統計調査士対策として、これまで実施してきたセミナーのオンデマンドコンテンツ化も進めた。具体的には、『日本の公的統計・統計調査』および『統計調査士得点源問題集』などの教材を基礎としたセミナー3回分のうち、第3回セミナーの動画化を完了し、第1回セミナー（統計制度）についても新たにオンデマンド化に着手した。こうした取組により、継続的かつ柔軟な学習機会の提供を実現している。

(5) 2024 年度事業を振り返って

オンデマンド授業が軌道に乗り、セミナーも予定通り進めることができた。ニュースレターで調査会社の仕事を紹介できたが、資格支援と共に調査会社のように社会でも評価される CSI の取り組みを続けていきたい。

2) 社会調査部会

2024 年度事業計画 2024 年度のテーマ：他機関との連携とアーカイブデータの活用

(1) 社会調査データアーカイブ (RUDA) プロジェクト

1) データ整備・提供業務

- 2023 年度までに、寄託されたデータセットのうち 74 データをクリーニングし、公開した。2024 年度では、さらに 3 データセットをクリーニングする。
- 立教大学の社会調査士科目 G (社会調査を実際に経験し学習する科目) で蒐集された、量的な社会調査データを対象に RUDA への寄託伺いを行い、寄託されたデータを収集し、公開する。

2) RUDA データの利用促進に向けた取り組み

- 社会調査活用セミナーの開催：RUDA データの教育・研究利用をさらに促進するため、データの利活用に関するセミナーを開催する。将来的にはアーカイブ探索に関する Web コンテンツの作成や、データ利用初心者でも活用しやすいようサービスの整理を行い、より広範な RUDA データの利用に向けた基盤構築につなげることを想定している。
- RUDA を中心としたデータアーカイブの利活用をテーマとするセミナーを年に 1 回行う。とりわけ、2024 年度は JAIRO Cloud 移行に伴い改修された RUDA の利活用に関する周知を行う。
- RUDA データを利用した二次分析のやり方に関するセミナーを年に 2 回行う。
- 社会調査を利用した研究について情報収集を行い、既存データ利用の可能性について見識を深め、RUDA の広報に還元する。その一環として、先進的な研究発表が行われる国際学会に参加する。

3) アーカイブ事業の協力体制

- DDI を基盤として、国内外アーカイブとの連携事業を行い、より広範な二次利用環境の整備、そしてアーカイブ事業に関わる研究協力基盤の構築を行う。具体的には以下の 2 つの事業を行う。
 - 相互検索システムの構築：RUDA と国内外アーカイブでそれぞれが所有しているデータを一元的に検索することができるシステムを構築し、網羅的・効率的なデータ検索環境の整備を行う。
 - 研究協力基盤の構築：データアーカイブ運営の在り方をテーマとする研究基盤を国内外アーカイブとの共同のもと整備し、国内アーカイブ水準の改善に向けた研究発信を行う。そのために、先進的な研究発表が行われる国際会議にて海外アーカイブ事情を確認し、改善案を模索する。

(2) 社会調査士資格関連事業

1) 社会調査士・専門社会調査士科目申請の支援

組織会員として加入している社会調査協会に対し、学内における一元的な連絡責任者として、学部・研究科内の学内連絡責任者と連携して社会調査士・専門社会調査士カリキュラムの科目申請事務を行う。また、学部・研究科が設置する資格対応科目の認定申請に関する相談受付などの諸支援を行う。

2) 社会調査士・専門社会調査士取得申請の支援

教務事務センターと連携して学部学生・大学院学生の社会調査士・専門社会調査士資格取得支援体制を整備し、取得希望者に対する 相談・申請の受付業務を行うとともに、資格申請に関する学内広報を行う。ま

た、教務事務センターと連携して2012年度より導入した指定科目証明書発行システムの運用を通じ、資格取得相談から申請までの一貫した窓口業務を提供する。

(3) その他対外連携事業

- 1) ICPSR (Interuniversity Consortium for Political and Social Research) の国内利用協議会を通じた会員機関として、その所蔵データ利用の学内広報につとめる。
- 2) ICPSR 本部が実施するサマープログラム(セミナー)、およびICPSR 国内利用協議会が実施する夏季統計セミナー等の活動に関する学内広報につとめる。

(4) 社会調査フォーラムの開催

統計的社会調査の理論と方法に関する実践例の紹介を企図とするセミナー(社会調査フォーラム)を、1回以上開催する。具体的には、外部から社会調査の経験がある研究者を招聘し、社会調査の実際をテーマとする研究会の開催を通して、その理論や方法を広く学ぶ機会を設ける。または、社会調査データを活用している実務家をお招きし、活用に至った経緯やその実践と意義に関する講演会を開催する。

(5) 社会調査に関わるコンサルティング事業

- 1) 学内研究者と大学院学生に対し、社会調査の企画・設計に関する相談、および統計分析に関する相談を受け付ける。
- 2) 学内部局に対して、社会調査の企画・設計の諸方法に関する相談、および統計分析に関する相談を受け付ける。

2024 年度事業報告

(1) 社会調査データアーカイブ (RUDA) プロジェクト

立教大学社会調査データアーカイブ (Rikkyo University Data Archive: RUDA) は、研究目的や教育目的の二次分析のため、以下のとおりデータセットを公開している。2024 年度はデータセットを新たに公開した。現在、累計のデータセットが公開されている。

〈2024 年度 公開データセット：4 件〉

公開日	調査名
7月4日	多様化する社会生活に関する調査 (RUDA0086)
7月4日	多文化化する社会生活に関する調査 (RUDA0087)
7月17日	過去・現在の暮らしと社会認識に関する調査 (RUDA0088)
11月7日	平成 28 年「参議院選挙直後調査」 (RUDA0089)

(2) セミナー・各種イベント開催

2024 年度は以下のセミナーを開催した。

◆CSI 社会調査データ活用セミナー

〈第 1 回〉

テ ー マ：社会調査データの解析①～クロス集計と相関分析～

開催日時：2024 年 6 月 12 日 (水) 17:30～19:00

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師：御手洗 由佳 (社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：17 名 (学生 8 名、教職員 9 名)

〈第 2 回〉

テ ー マ：社会調査データの解析②～回帰分析～

開催日時：2024 年 6 月 19 日 (水) 17:30～19:00

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師：池田 岳大 (社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：10 名 (学生 5 名、教職員 5 名)

〈第 3 回〉

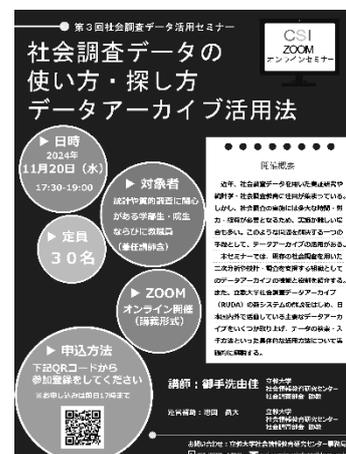
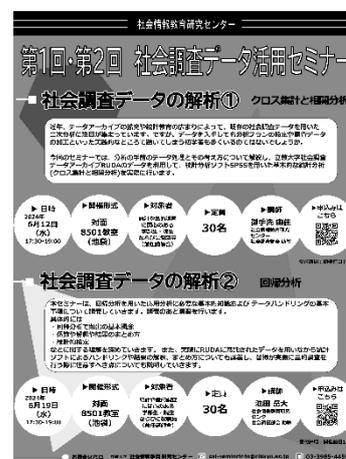
テ ー マ：社会調査データの使い方・探し方～データアーカイブ活用法～

開催日時：2024 年 11 月 20 日 (水) 17:30～19:00

場 所：Zoom オンライン

講 師：御手洗 由佳 (社会情報教育研究センター 助教)

参加人数：18 名 (学生 8 名、教職員 10 名)



◆第14回社会調査フォーラム

テーマ：DID (Difference in Difference) の基本的な考え方と実践

開催日時：2025年1月11日(土) 15:00~17:00

場所：池袋キャンパス 8号館 8501教室

講師：内藤 朋枝氏 (成蹊大学経済学部 准教授)

参加人数：23名 (学内学生・教職員12名、学外学生・教職員11名)

(3) 2024 年度事業を振り返って

今年度は上記の通常業務に加えて、9月25日のRUDAシステム移行にあたって、関係者やNII朝岡誠先生との協議を重ねながら、準備を進めた他、移行後も調整などに注力した。具体的には、利用規約の改定、HPの変更に伴う各種設定、日英のマニュアル改定などを行った。また、前年度に引き続き、今年度も国内セミナーや部会業務については人員異動の関係もあり、通常業務から縮小して事業を行った。そのなかでも、国立情報学研究所と行ったデータアーカイブに関する情報交換や、IASSISTへのオンライン参加等を通じて、国内外機関のデータアーカイブの動向等を知る機会を得た。後者に関しては、『社会と統計』第11号に資料論文として掲載をし、情報発信にも努めた。

来年度は新たな組織体制のもと、RUDAの広報を強化することや他機関との連携の模索など、より効率的かつオープンな運営を行いたい。

3) 統計教育部会

2024 年度事業計画

- (1) 全学共通カリキュラム・オンデマンド授業の管理・運営
『社会調査入門』の管理・運営
『データ分析入門』の管理・運営
『社会調査の技法』の管理・運営
『データの科学』の管理・運営
『多変量解析入門』の管理・運営
『Introduction to Statistics 1』の管理・運営
『Introduction to Statistics 2』の管理・運営
『Introduction to the Social Survey』の管理・運営
『Introduction to Multivariate Analysis』の管理・運営
これら 9 科目の詳細は「オンデマンド授業」をご参照ください。
- (2) 全学共通カリキュラム・オンデマンド授業用教材の評価と検証
受講生の学習履歴データ、モニター学生からのコメントなどをもとに、オンデマンド授業用教材を評価・検証する。
- (3) データサイエンス副専攻の支援
データサイエンス副専攻の支援を行う。
- (4) CSI 統計セミナー、統計検定対策セミナーの開催
統計検定合格水準の統計学に関する知識と活用力を身に着けるためのセミナー、および統計検定の受検ガイダンスを実施する。
- (5) 統計学習のための教材およびプログラムの改修および開発
社会から求められる人材育成のための教育プログラムや教材を開発・改修する。
- (6) 統計教育フォーラム・公開講演会の開催
社会調査や統計関係の科目担当者向けの FD を行う場としての統計教育フォーラムや統計教育の開発や推進のための公開講演会の開催。
- (7) 学外統計教育関連行事への共催や後援
スポーツデータ解析コンペティションをはじめとする学内外での統計教育関連の事業への関与を通じ、社会的貢献を行う。
- (8) 高大連携プログラムの開催実施
統計やデータ活用に関する高大連携プログラムの開発と実施を行う。

2024 年度事業報告

(1) オンデマンド授業・セミナー等について

◆全学共通カリキュラム・オンデマンド授業の管理・運営

受講者数は下記の通り、その他の詳細は別途記載している。

1. 『社会調査入門』 受講者数：209 名
2. 『社会調査の技法』 受講者数：194 名
3. 『データ分析入門』 受講者数：201 名
4. 『データの科学』 受講者数：191 名
5. 『多変量解析入門』 受講者数：144 名
6. 『Introduction to Statistics 1』 受講者数：205 名
7. 『Introduction to Statistics 2』 受講者数：205 名
8. 『Introduction to the social survey』 受講者数：93 名
9. 『Introduction to Multivariate Analysis』 受講者数：12 名



◆CSI 統計分析セミナー

CSI 統計分析セミナーは Blackboard および Canvas LMS を通じて配信するオンデマンド型のセミナーである。同セミナーの Blackboard 上での公開は 2024 年度で終了し、2024 年度からは Canvas LMS のセルフラーニング上での公開に一本化した。既存の SPSS 統計解析（Basic コース／SEM コース）および R 統計解析（基本コース／多変量解析コース）に加え、2018 年度からは統計検定対策セミナーコースの配信を行っている。

【現在公開中のコース】（登録者数は 2025 年 3 月 18 日時点のもの）

1. SPSS 統計解析（Basic コース）

統計解析ソフト SPSS に関する基本動作を習得し、簡単な統計処理を行うための技術を身に着ける。また同時に、関連する統計学の基本的な事項についても学習する。基本統計量に加え、質的変数、量的変数に焦点を絞り、これらの変数を適切に集計、解析をできるレベルの操作を行う。

講 師：大橋 洸太郎

（前 社会情報教育研究センター 助教）

登録者数：184 名

2. SPSS 統計解析（SEM コース）

統計解析ソフト Amos に関する基本動作を習得し、SEM によるモデル構築と分析結果の確認を行うための技術を身に着ける。また同時に、一般的によく用いられるモデルの紹介を行い、それらの分析を通してモデル構築や評価に習熟する。

講 師：大橋 洸太郎

（前 社会情報教育研究センター 助教）

登録者数：70 名

3. R 統計解析（基本操作コース）

統計解析環境 R の動作に関して、R の起動からデータの保存、終了の仕方などの基本操作に習熟する。また、スクリプトの書き方を通じて、簡単なデータハンドリングの技術を身に着ける。

講 師：大橋 洸太郎

（前 社会情報教育研究センター 助教）

登録者数：164 名

4. R 統計解析（基本操作コース 2）

- ・ R を使って 1 変数の集計ができるようになる。
- ・ R を使って 2 つの質的変数の関係性を把握する。
- ・ R を使って 2 つの量的変数の関係性を把握する。

講 師：大橋 洸太郎

（前 社会情報教育研究センター 助教）

登録者数：57 名

5. R 統計解析（多変量解析コース 1）

第 1 回 R/R Studio の使い方

第 2 回 重回帰分析

第 3 回 分散分析（1, 2 要因参加者間実験）

講 師：大橋 洸太郎

（前 社会情報教育研究センター 助教）

登録者数：76 名

6. R 統計解析（多変量解析コース 2）

第 1 回 R/R Studio で因子分析

第 2 回 R/R Studio でクラスター分析

第 3 回 これまでのまとめ（春学期/秋学期）

講 師：大橋 洸太郎

（前 社会情報教育研究センター 助教）

登録者数：62 名

7. 統計検定対策セミナー

●オリジナルテキスト

●動画（以下 18 コンテンツ）

- ・ 1 変数データの要約 ・ 2 変数データの要約 ・ 離散型確率変数 ・ 様々な離散型確率変数 ・ 連続型確率変数
- ・ 様々な連続型確率変数 ・ 推定 ・ 母平均の区間推定 ・ 母比率の区間推定 ・ 母分散の区間推定
- ・ 仮説検定とは、母比率の検定 ・ 母平均の検定 ・ 母平均の差の検定 ・ 適合度検定、独立性の検定 ・ 分散分析
- ・ 単回帰分析 ・ 重回帰分析 ・ 数表の読取り方

講 師：渡辺 健太郎（社会情報教育研究センター 助教）

登録者数：116 名

◆統計検定ガイダンス・受験対策セミナー

社会情報教育研究センターでは、統計学習のサポートとして、対面での統計検定ガイダンスや受験対策セミナーを実施している。2024 年度は対面での受験対策セミナーは行わず、ガイダンスは春学期（5月9日）にのみ行った。Canvas LMS における CSI 統計検定対策セミナーは、統計検定 2 級および 3 級の試験対策として、テキスト及び動画を改修して配信した。

◆公開講演会

開催日時：2024 年 11 月 28 日（木）15:20～17:00

場 所：池袋キャンパス 14 号館 5 階 D501 教室

講 師：鈴木 督久 氏（日本世論調査協会会長）

テ ー マ：世論調査の未来—歴史と課題—

対 象：本学学生、教職員、校友、一般

◆セミナー

開催日時：2024年8月7日（水）17:10～18:50

場 所：池袋キャンパス 8号館 5階 8501 教室

講 師：渡辺 健太郎（社会情報教育研究センター 助教）

テ ー マ：R によるデータ分析入門

◆高校生向け統計教育セミナー

2024年7月29日に立教女学院高等学校3年生向けのプログラムを実施した。

(2) 共催・後援セミナー等

◆各種コンペティション

統計教育部会では、各種コンペティションへの参加を希望する、立教大学の学生を支援する体制を整えている。2024年度は、CSIのホームページ上で、「統計データ分析コンペティション2024」や「第8回和歌山県データ利活用コンペティション」、「マーケティング分析コンテスト2024」等のコンペティションについての告知を行ったが、学生からの参加申し込みは寄せられなかった。

◆職員向け情報リテラシー研修

昨年度に引き続き2024年度も、教務部より依頼を受け、本学職員に向けた統計研修を行った。

開催日時：2024年5月30日（木）14:00～16:00

主 催：本学人事課

場 所：8301 教室

講 師：山口 和範（経営学部 教授）

テ ー マ：今必要とされる統計的思考力

対 象：本学職員

(3) データサイエンス副専攻支援

データサイエンス副専攻に関する案内を掲載したNEWS LETTER（Vol.13、Vol.14）を発行した。

(4) 2024年度事業を振り返って

2024年度は、メインの授業支援システムがCanvas LMSへと一本化された。メディアセンターや教育研究コーディネーターのサポートもあり、オンデマンド授業やセミナー等のコンテンツが問題なく提供されている状況にあるといえる。また、2024年度は、実習形式のセミナー「Rによるデータ分析入門」や公開講演会「世論調査の未来—歴史と課題—」などを開催した。そのため、学内外に向けて、統計教育の充実に資する活動を行うことができたと考えられる。今後も様々な連携の下、統計教育部会での統計教育の質保証と一層の充実のための活動を継続する。

3 資格支援事業

1) 社会調査士

「社会調査士」と「専門社会調査士」は、いずれも一般社団法人社会調査協会が認定するものであり、社会調査の知識と技能を有する専門的な人材の育成を目的として作られた資格である。

社会情報教育研究センターでは、社会調査部会の助教が資格対応カリキュラム導入学部・学科・研究科すべての連絡責任者となり、学生の資格取得や各学部・学科の認定科目申請の支援を行うなど、立教大学内の社会調査士資格に関する窓口業務を担っている。

◇社会調査士・専門社会調査士 資格制度参加学部・研究科

- ・全学共通カリキュラム運営センター（オンデマンド授業）
- ・社会学部 全学科
- ・経済学部 全学科
- ・経営学部 全学科
- ・コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科
- ・現代心理学部 心理学科
- ・大学院 社会学研究科
- ・大学院 コミュニティ福祉学研究科

〈資格申請〉

2024年度の社会調査士・社会調査士（キャンディデイト）・専門社会調査士の資格申請・資格取得者数は以下の通りである。

社会調査士 資格申請者数：85名（2025年3月申請分）

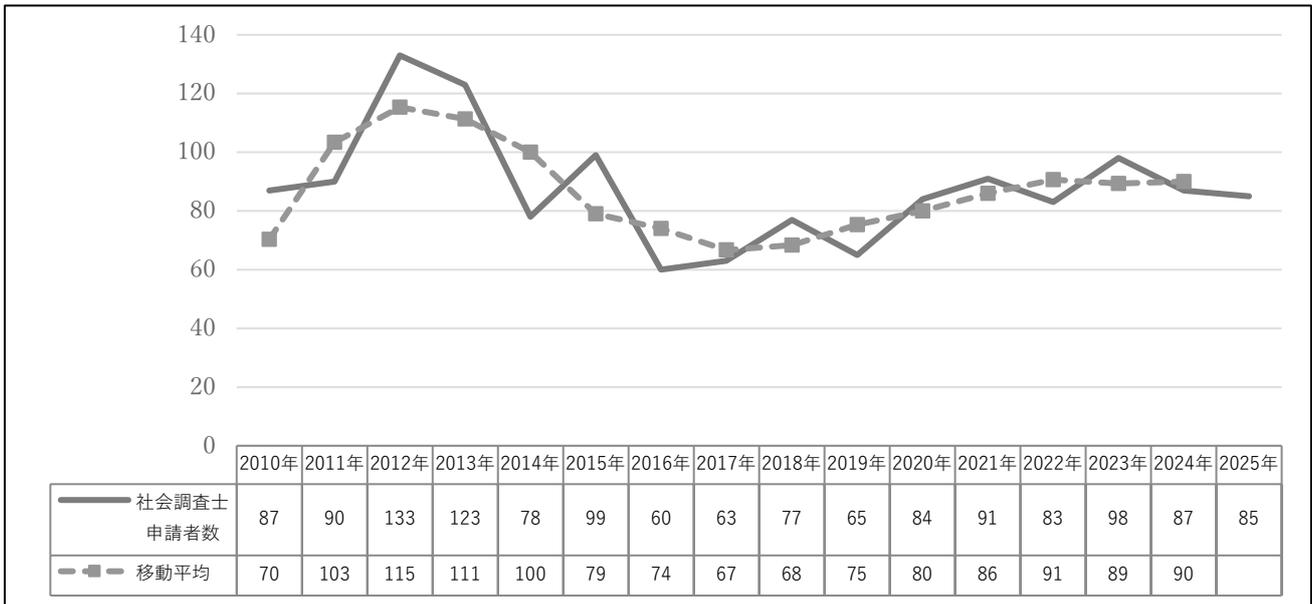
専門社会調査士 資格申請者数：1名（2025年3月申請分）

社会調査士（キャンディデイト）資格取得者数：78名（春学期41名・秋学期37名）

（2025年3月31日時点）

◆ 本学における社会調査士資格ならびにキャンディデイト資格申請の推移

【社会調査士申請者数の推移（2025年3月）】

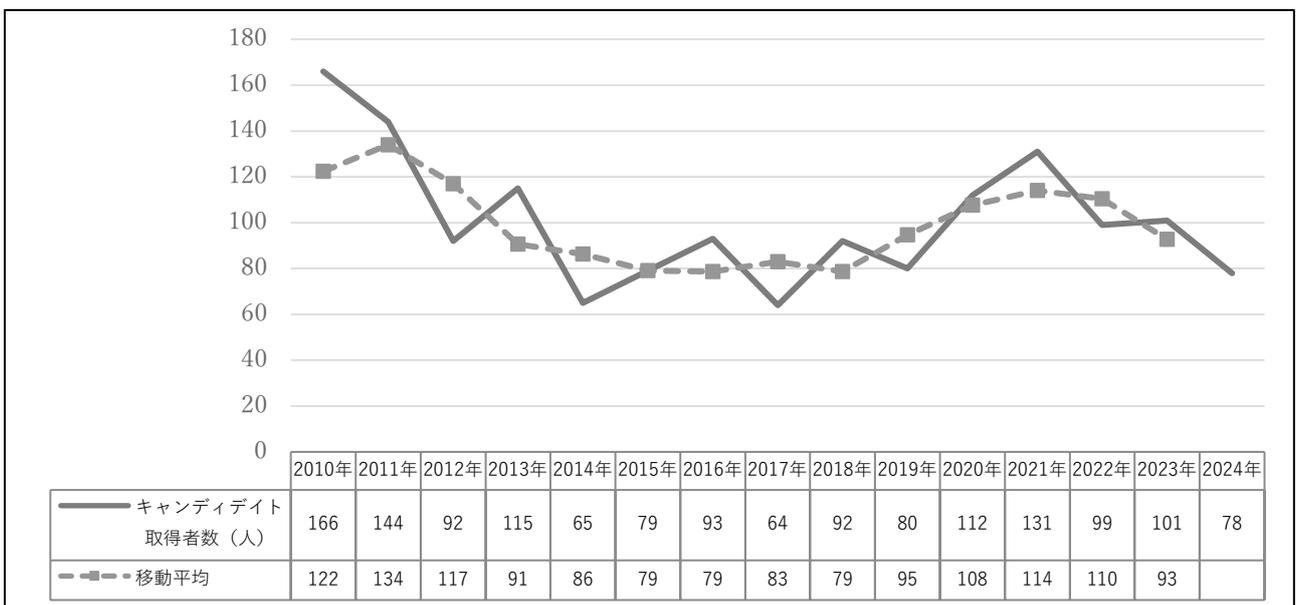


【学部学科別社会調査士・専門社会調査士申請者数（2025年3月）】

	社会学部			経済学部	経営学部	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科	観光学部	現代心理学部		合計	大学院		合計
	現代文化学科	社会学科	メディア社会学科					心理学科	社会学研究科		コミュニティ福祉学研究科		
2025年春 (本申請)	8	5	5	9	0	22	0	36		85	1	0	1

上記のグラフは、2010年度から2024年度までの、社会調査士の申請者数の推移、移動平均を示したものである。また、2024年度学部学科別の社会調査士、および専門社会調査士の申請者数は上記表のとおりである。

【社会調査士（キャンディデイト）取得者数の推移】



本学における社会調査士資格のキャンディデイト取得者数は、上記の表のとおり推移している。2010 年度に、教務事務センターより窓口業務が移管され、社会情報教育研究センターでの申請受付が始まった。2024 年度のキャンディデイト取得者数は 78 名で、前年度に比べると 23 名の減少となった。

【2024 年度学部学科別 社会調査士（キャンディデイト）取得者数】

	社会学部			経済学部	経営学部	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科	現代心理学部 心理学科	その他の 学部・研究科	合計
	社会学科	メディア 社会学科	現代文化 学科						
2024年10月認定者数 (春学期申請)	2	2	7	8	1	9	12	0	41
2024年12月認定者数 (秋学期申請)	7	2	5	4	0	7	11	1	37
合計	9	4	12	12	1	16	23	1*	78

(* 社会デザイン研究科の大学院生)

上記の表は、2024 年度の学部学科別の社会調査士（キャンディデイト）取得者数の学部・学科別の内訳を示している。昨年度まで「観光学部」を独立した項目として設けていたが、社会調査士に対応したカリキュラムが終了してから年数が経過し、申請者数もゼロが続いているため今年度から項目を削除した。これ以降観光学部の学生から申請があった場合は「その他の学部・研究科」としてカウントすることとする。

社会学部では他学部に比べて社会調査士科目を取得しやすいカリキュラム設計がされているため、毎年一定数の学生がキャンディデイトを取得している。一方、2024 年度は現代心理学部のキャンディデイト取得者が昨年と比較して大きく減少しており（2023 年度は 45 名）、現代心理学部の取得者の減少が全体の取得者減少に与えた影響が大きい。

〈科目申請〉

2024 年度も引き続き Google ドライブを活用して、各学部・学科・研究科への説明書類の配布、及び各学部から申請科目の情報収集を行った。2024 年度は資格取得対応カリキュラムを導入する全学部・学科・研究科合計で 130 科目の認定を受けた。また 2025 年度の対応科目として 127 科目の申請手続を 2024 年 12 月に行い、2025 年 3 月に 127 科目の認定を社会調査協会より受けた。

2) 統計検定

一般財団法人統計質保証推進協会主催による統計検定は、文部科学省および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証」の一環として実施された試験であり、統計教育の質保証との関連で位置づけられている。社会情報教育研究センターでは 2011 年度より受験の案内から統計検定対策セミナー開催に至るまで、統計検定受験者に対する一元的な支援を行ってきているが、会場でのペーパーベースの試験（PBT）からコンピューターによる試験（CBT）に移行が進んでおり、会場提供の支援は現在行っていない。

4 教育支援事業

1) 正課科目の開発・提供

2024年度も引き続き全学共通カリキュラムのオンデマンド授業「社会調査入門」・「社会調査の技法」・「データ分析入門」・「データの科学」・「多変量解析入門」・「Introduction to Statistics1」・「Introduction to Statistics2」・「Introduction to the Social Survey」・「Introduction to Multivariate Analysis」の運営を行った。なお、これら9科目は社会調査士資格認定科目となっている。

◆社会調査入門

【担当者】 池田 岳大 (社会情報教育研究センター 助教)

【教育コーチ】 御手洗 由佳 (社会情報教育研究センター 助教)

【授業の目標】 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。社会調査士資格認定科目「A」に対応。

【受講者数】 209名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to the social survey

【担当者】 池田 岳大 (社会情報教育研究センター 助教)

【教育コーチ】 御手洗 由佳 (社会情報教育研究センター 助教)

【授業の目標】 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。社会調査士資格認定科目「A」に対応。

【受講者数】 93名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆社会調査の技法

【担当者】 渡辺 健太郎 (社会情報教育研究センター 助教)

【教育コーチ】 安東 慶太 (社会情報教育研究センター 助教)

【授業の目標】 社会調査の技法的な側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と整理に関する具体的な方法について解説する。社会調査士資格認定科目「B」に対応。

【受講者数】 194名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆データ分析入門

【担当者】 渡辺 健太郎 (社会情報教育研究センター 助教)

【教育コーチ】 安東 慶太 (社会情報教育研究センター 助教)

【授業の目標】 社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

【受講者数】 201名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to Statistics 1

【担当者】 山口 和範（経営学部 教授）、ドイ・ジミー（立教大学 兼任講師）

【教育コーチ】 なし

【授業の目標】 社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

【受講者数】 205名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆データの科学

【担当者】 渡辺 健太郎（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 安東 慶太（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

【受講者数】 191名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to Statistics 2

【担当者】 山口 和範（経営学部 教授）、ドイ・ジミー（立教大学 兼任講師）

【教育コーチ】 なし

【授業の目標】 社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

【受講者数】 203名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆多変量解析入門

【担当者】 小野原 彩香（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 香川 涼亮（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。社会調査士資格認定科目「E」に対応。

【受講者数】 79名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to Multivariate Analysis

【担当者】 小野原 彩香（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 香川 涼亮（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。社会調査士資格認定科目「E」に対応。

【受講者数】 52名

授業内容はシラバスを参照のこと。

2) 各種コンテンツの開発および改修

◆R教材の開発、公開

LMS のセルフラーニングコンテンツ（「R 統計解析（基本操作コース）」、「R 統計解析（基本操作コース 2）」、「R 統計解析（多変量解析コース 1）」、「R 統計解析（多変量解析コース 2）」）をベースとして、VOICEPEAK による自動音声の調整作業や教材の追加等を行った。完成したオンデマンド R教材は、新規コース「Rによる統計分析」として、2025 年 4 月 1 日より公開の予定である。

5 研究支援事業

1) 調査研究コンサルティング

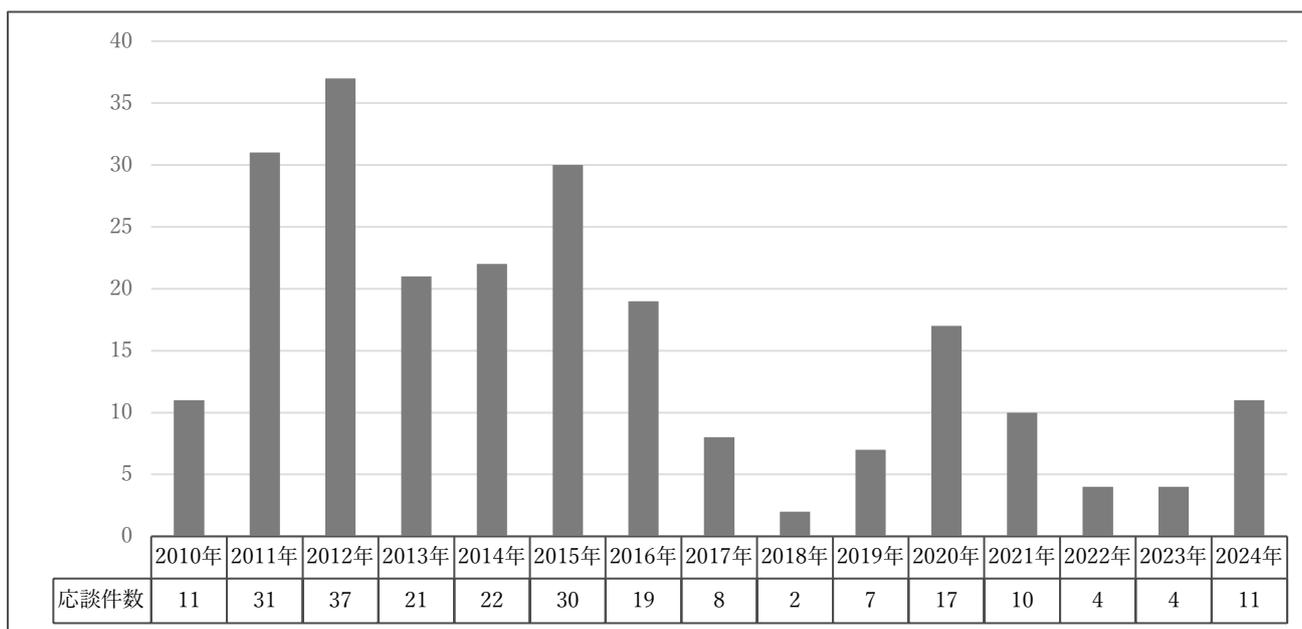
社会情報教育研究センターでは、立教大学の大学院学生や教職員を対象に調査研究に関するコンサルティングを行っている。主な相談内容は、学内アンケートや社会調査の立案や実施、公的統計データの利活用、統計分析に関する相談である。多くは一回にとどまらず、その後の調査経過も含めて継続的なコンサルティングとなっている。

2024年度のコンサルティング応談件数は11件であった。教員からの依頼が6件、院生からの依頼が5件であり、それぞれ依頼のあった大学院学生、教職員の所属元は以下の通りである。なお、同一の相談者から複数回の依頼があった場合も件数ごとにカウントしている。

【2024年度 社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数】

学部・研究科	教員	院生	総計
社会デザイン研究科（旧 21世紀社会デザイン研究科）		3	3
ビジネスデザイン研究科		1	1
経済学研究科	2		2
コミュニティ福祉学研究科		1	1
グローバル教育センター	1		1
外国語教育研究センター	1		1
全学共通カリキュラム運営センター	2		2
総計	6	5	11

【社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数 年度別推移】



2) 対外連携活動

◆社会調査協会

一般社団法人社会調査協会と連携し、同協会が実施する S 1 科目、S 2 科目などの講習会事業の開催協力を行ってきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行以降は対面での講習会は中止され、2022 年度からオンライン開催がメインとなった。2024 年度もオンラインでの開催となったため、対面を前提とした開催協力は行わなかった。

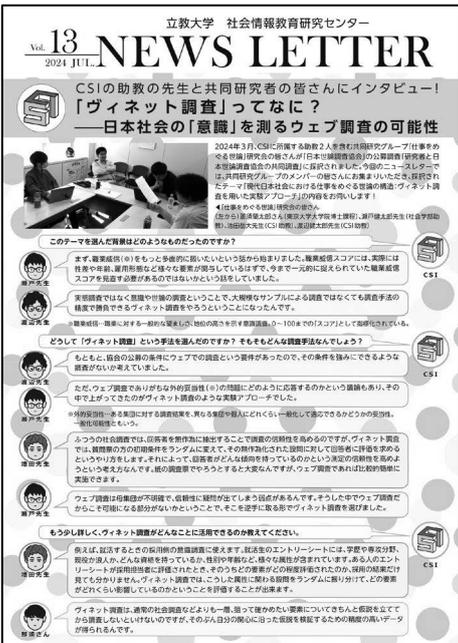
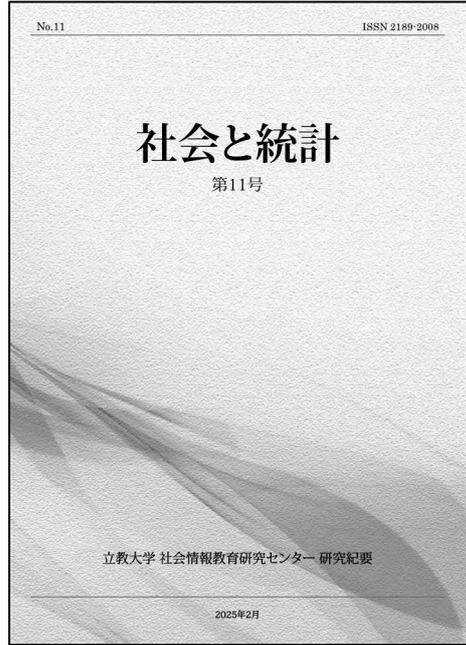
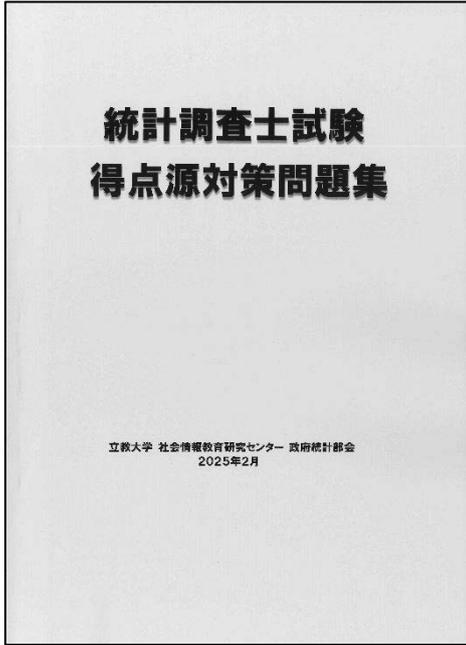
◆ICPSR（本部および国内利用協議会）

ICPSR（Inter-university Consortium for Political and Social Research：政治・社会調査のための大学間コンソーシアム、本部：ミシガン大学 社会調査研究所）は、社会科学に関する調査の個票データを世界各国や国際組織から収集・保存し、それらを学術目的での二次分析のために提供する世界最大級のデータアーカイブである。立教大学は、国内利用協議会（ハブ機関：東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター）を通じて加盟している ICPSR の会員機関である。

社会情報教育研究センターでは、2024 年度も ICPSR のデータアーカイブ機能の利用についての学内広報、およびサマープログラムの学内告知を行った。ICPSR 本部によるサマープログラムは現地参加とオンラインのハイブリッド形式となったが、本大学からの参加者はなかった。また、毎年 ICPSR 国内利用協議会が実施する国内統計セミナーについては、2021 年度以降オンライン形式での開催となっており、2024 年度もオンラインでの実施となった。

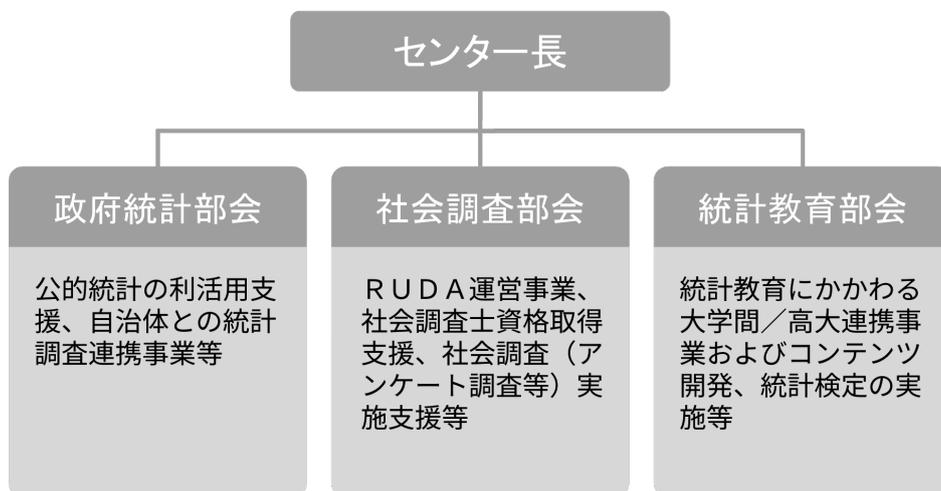
6 出版物

- 『統計調査士試験 得点源対策問題集』（2025年2月版）
- 社会情報教育研究センター研究紀要『社会と統計』（第11号）
- NEWS LETTER (Vol. 13、 Vol. 14)



7 組織図および構成メンバー

社会情報教育研究センターの組織図は以下の通りである。



■センター長

砂川 浩慶（社会学部 教授）

《政府統計部会》

■部会リーダー

櫻本 健（経済学部 准教授）

■部会メンバー

安藤 道人（経済学部 准教授）

小野原 彩香（社会情報教育研究センター 助教）

香川 涼亮（社会情報教育研究センター 助教）

川波 賢太（社会情報教育研究センター 学生アルバイト）

■研究協力者

濱本 真一（日本大学文理学部社会学科准教授）

菊地 進（立教大学名誉教授）

小野寺 剛（九州国際大学現代ビジネス学部地域経済学科教授）

倉田 知秋（環太平洋大学経営学部現代経営学科講師）

西林 勝吾（大正大学地域創生学部地域創生学科専任講師）

則竹 悟宇（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント、立教大学大学院経済学研究科）

■連携機関

法政大学日本統計研究所

《社会調査部会》

■部会リーダー

片上 平二郎（社会学部 准教授）

■部会メンバー

水上 徹男（社会学部 教授）

高木 恒一（社会学部 教授）

中澤 渉（社会学部 教授）

川畑 泰子（社会学部 准教授）

三輪 哲（社会学部 教授）

池田 岳大（社会情報教育研究センター 助教）

御手洗 由佳（社会情報教育研究センター 助教）

宮澤 篤史（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

山中 惇史（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

小松 恵（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

《統計教育部会》

■部会リーダー

山口 和範（経営学部 教授）

■部会メンバー

田中 聡（経営学部 准教授）

渡辺 健太郎（社会情報教育研究センター 助教）

安東 慶太（社会情報教育研究センター 助教）

《社会情報教育研究センター事務局》

小川 龍秀（情報企画室 課長）

木田 英樹（情報企画室 課長補佐）

兼築 弥和（情報企画室 課員）

藤谷 貴樹（情報企画室 課員）

佐藤 裕亮（社会情報教育研究センター 教育研究コーディネーター）

梅垣 緑（社会情報教育研究センター 教育研究コーディネーター）

笹沼 みずほ（社会情報教育研究センター事務局）

旭泉 阿咲子（社会情報教育研究センター事務局）

本田 邦子（社会情報教育研究センター事務局）

